

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
北海道芸術デザイン専門学校	昭和51年4月1日	館山 昭	〒001-0024 札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人美術学園	昭和62年12月4日	高橋英雄	〒001-0024 札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
文化・教養	専門課程	環境デザイン学科 (フワワーデザイン専攻)	平成7年1月23日 文部科学省告示第7号	—																						
学科の目的	環境デザイン学科(フワワーデザイン専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・国家資格を中心に各種の資格取得を推進し、社会の発展に寄与する実践的な能力・態度を育てる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し実務的な職業教育を施す。																									
認定年月日	昭和51年4月1日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
	2400時間	90時間	2310時間	0時間	0時間	0時間																				
2年	単位時間																									
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
120人	29人	0人	1人	12人	13人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月27日 ■後期:9月28日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業担当教員が課題の成果・提出状況・出席状況等を総合的に評価する。																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月9日 ■夏季:7月22日～8月20日 ■冬季:12月20日～1月14日 ■前期末:9月15日～9月27日 ■学年末:3月3日～3月31日		卒業・進級条件	教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められるときは、各学年の課程の修了又は卒業を認定する。卒業必要授業数 2400単位時間																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携		課外活動	■課外活動の種類 北海道私立専修学校各種学校連合会札幌支部体育事業の参加、学園祭等の実行委員会等 ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 生花店 ■就職指導内容 一年次より就職ガイダンスを開催。二年時には就職課、担任を含めた三者面談を複数回行う。 ■卒業生数: 8人 ■就職希望者数: 8人 ■就職者数: 8人 ■就職率: 100% ■卒業生に占める就職者の割合: 100% ■その他 ・進学者数: 0人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定 ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>ADEC色彩士検定3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>NFDフワワーデザイナー資格検定試験2級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>フワワー装飾技能検定3級</td> <td>①</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ・NFD道央支部40周年記念フワワーデザインコンテスト1位 ・第19回池坊学校華道インターネット花展 全国7位(読売新聞社賞)、全国9位(産経新聞社賞)、専門学校への部入選			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定 ジョブパス3級	③	8人	7人	ADEC色彩士検定3級	③	8人	7人	NFDフワワーデザイナー資格検定試験2級	③	8人	8人	フワワー装飾技能検定3級	①	8人	8人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
ビジネス能力検定 ジョブパス3級	③	8人	7人																							
ADEC色彩士検定3級	③	8人	7人																							
NFDフワワーデザイナー資格検定試験2級	③	8人	8人																							
フワワー装飾技能検定3級	①	8人	8人																							
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 4% 平成28年4月1日時点において、在学者25名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者24名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 健康上の理由による進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 パブリック奨学制度、スカランシップ奨学制度、交換留学奨学制度等 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象)																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有)無																									
当該学科のホームページURL	http://www.bisen-g.ac.jp/																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(「就職した者が就職先が不明の者は就職者として扱」)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や准

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針			
本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け			
年2回開催される本委員会は、委嘱委員から経営者等としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組むための、意見交換および教育効果検証の場として位置付ける。			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿			
平成29年10月31日現在			
名 前	所 属	任 期	種 別
佐野 公康	株式会社デービス 代表取締役	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
西村 昌実	北海道イラストレーターズクラブα 会長	同上	①
伊賀 一泰	(株)パラポリカ 代表取締役社長	同上	③
内藤 卓也	(株)ジュリアジャパン 取締役社長	同上	③
佐藤 利明	北海道インテリアプランナー協会 会長	同上	①
山腰 信吉	札幌貴金属工芸組合 会長	同上	①
中山 眞琴	(株)nAナカヤマ・アーキテクト 代表取締役	同上	③
鈴木 理	(株)鈴木理アトリエー級建築士事務所 代表取締役	同上	③
館山 昭	北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長)	同上	
高橋 美絵	同 教務部長	同上	
飯塚 哉子	同 学務部長・環境デザイン学科長	同上	
高畑 文一	同 産業デザイン学科長	同上	
田中 政史	同 マルチメディアデザイン学科長	同上	
本間 健一	同 建築デザイン学科長	同上	
石川 恭行	同 就職課長	同上	
<p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。</p> <p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期			
(開催日時)			
第1回 平成29年8月29日 16:00～18:00			
第2回 平成30年2月2日 16:00～18:00(予定)			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況			
第1回教育課程編成委員会で出された意見や助言を踏まえ、改善点があれば、可能なものは後期の授業から、その他については次年度の教育課程編成に際して反映させ、第2回教育課程編成委員会で新年度教育課程案として提案している。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針			
本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容			
<p>・職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。</p> <p>・担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書(シラバス)を作成し、指導講師と教務部で情報を共有する。</p> <p>・学修成果の評価指標・手法についても予め協議し、演習終了後には指導講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。</p>			

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
基礎技術演習Ⅱ 応用技術演習Ⅱ	植物の持つ特性を深く観察し、個性あふれる作品作りを学ぶことを目的とし、トップフロリストの指導により、現代のライフスタイルに合わせた商品価値を生み出すコンテンポラリーコーディネートションを身につける。	有限会社 花保
基礎技術演習Ⅱ	生花業界で必要とされる、植物学の基礎を学ぶ。種子からの栽培や植物の観察、写真撮影といった実技を踏まえて植物の分類や構造について学習するとともに、花苗生産の現場や植物園にて現地学習を行い、生花業界で生きた力となる実践的知識を身につける。	有限会社 アークス
材料学 応用技術演習Ⅱ	生花や植物の持つ魅力を最大限に生かしたデザインを目指すとともに、制作者の個性的表現を引き出す。社会に出てからの実践的スピード感を養うことを目的とする。実際の客層を想定し、実践的なデザインテクニックを学ぶ。	HUG FLOWER'S AKIRA NAKAMURA
応用技術演習Ⅰ	フロリストとして信頼される人材を目指して生花業界のあり方、生花業界の仕組み、生花業について学ぶことを目的とし、フラワーショップで実務を経験し、現場で必要とされる仕事についての心構えを認識する。花き卸売市場を見学し、業界団体主催の講習会に参加する。	札幌生花商業協同組合
応用技術演習Ⅰ コンペ課題制作	札幌生花商業協同組合を主軸とする団体や札幌の花弁業界の歴史等を学び、業界に求められる人材に成長することを目指してフラワービジネスの基礎知識を学ぶ。フロリストとして必要不可欠なスタンド装花の迅速な作業メソッドを身につけ、生花店経営をする上での商品としての制作理解を深める。	有限会社 フローラル花づくし

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。

・教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。

・各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。

・授業および学生に対する指導力向上のため、各種職能団体が運営する指導員研修への参加や、所定の年度に大学等で実施される教員免許更新講習等を受講する機会を確保する。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成29年6月12日『ダリアの球根分け(分球)について』 主催:札幌ダリア会ボランティアチーム 吉田弘氏

②指導力の修得・向上のための研修等

平成29年7月21日 平成29年度第1回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会『求められる教師の仕事～教えることから教え育てること』 主催:北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

平成29年1月21日予定『ブライダルフラワービジネスの実践について』 主催:ブロックコーポレーションブライダル事業部

②指導力の修得・向上のための研修等

平成29年12月予定 平成29年度第2回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会 主催:北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確に具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また、同時に関係する業界、企業等との信頼関係を深めることを基本の方針としている。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の教育理念・目的・人材育成は明確になっているか
(2)学校運営	教育活動に関する情報公開がなされているか
(3)教育活動	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか
(5)学生支援	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動は適性に行われているか
(8)財務	財務について会計監査が適性に行われているか
(9)法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらうと共に、信頼関係を深めるためにホームページ上に公開し、関係者よりご意見等を集約している

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
河村和義	(株)アトリエK一級建築士事務所	平成25年11月1日～平成30年3月31日(4年)	企業関係者
櫻井俊二	(有)I.B.DESIN	平成25年11月1日～平成30年3月31日(4年)	卒業生
山森鉄雄	山森鉄雄司法書士事務所	平成25年11月1日～平成30年3月31日(4年)	企業有識者
青山善照	札幌緑愛病院	平成25年11月1日～平成30年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())6月を目途にホームページで公表
URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校) <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	経営方針、学校の特色、人材育成の特色
(2)各学科等の教育	カリキュラム、収容定員、学修成果
(3)教職員	各教員の担当科目、教員の専門に関する情報
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援への取組状況、実習等の取組情報
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況
(6)学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱
(8)学校の財務	収支計算書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ・派遣状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校) <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

授業科目等の概要

(文化教養分野専門課程 環境デザイン学科 フラワーデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			一般教養 (一般教養知識)	社会人としての一般教養、常識、礼儀などビジネス社会に必要な知識を身につけ、ビジネス能力検定ジョブパス3級の合格を目指す。	1前	30	1	○		△	○		○		
○			英会話	英会話の学習を通じて、社会人としての教養を身につける。	1前	30	1	○		△	○			○	
○			デザイン概論 (フラワーデザイン概論)	行事や季節の中でのフラワーデザインの知識を身につけ、空間におけるフラワーデザインアレンジを学ぶ。	1前	30	1	○		△	○		○		
○			色彩学 (色彩)	色彩学における基本的な理論の学習、絵の具、カラーカードを用いた学習により色彩士検定3級の習得を目指す。また実践的な色彩計画をたてられる能力を身につける。	1前	30	1		○	△	○			○	
○			美術史 (フラワーデザインⅠ)	フラワーデザインの歴史また現代のライフスタイルにおけるフラワーデザインの重要性を学ぶ。	1前	30	1		○	△	○			○	
○			デザイン (ドローイング・基礎造形)	商品提案に不可欠なイメージ表現の手段として、短時間でモチーフの特徴を把握し、表現する目と画力を鍛える。	1後	30	1	△	○	△	○			○	
○			基礎技術演習Ⅰ (職業実践演習Ⅰ)	国家資格のフラワー装飾技能検定合格を見据え、同検定の学科、実技の内容を反映させた基礎知識、基礎技術の習得を目指す。	1前	30	1	△	○	△	○			○	
○			基礎技術演習Ⅰ (フラワーデザインⅠ)	花や草木の基本的な扱い方、基礎使用区分、ワイヤリングとファンデーションテクニックを学ぶ。	1前	30	1	△	○	△	○			○	
○			基礎技術演習Ⅰ (フラワーデザインⅡ)	複数の花材を使い、フラワーアレンジメントや花束の造形形態と構成要素を学ぶ。	1前	30	1	△	○	△	○			○	
○			基礎技術演習Ⅰ (フラワーデザインⅢ)	植物の基本的な自然現象を学び、植物をよく観察し、フラワーデザインの構成理論と植物特性を考慮にいれ、自然的と装飾的などを考察して造形する。	1前	60	2	△	○	△	○			○	

○		基礎技術演習Ⅰ（いけばなⅠ）	日本の伝統流派を学ぶ。和の作法を知り、古来から続くいけばなの奥深さに触れる。	1通	90	3	△	○	△	○								○	
○		基礎技術演習Ⅱ（フラワーコーディネーションⅠ）	現代のライフスタイルに合わせた商品価値を生み出すコンテナコーディネーション技能を身につける。	1通	90	3	△	○	△	○								○	○
○		基礎技術演習Ⅱ（フラワーコーディネーションⅡ）	フローリストとして必要不可欠なブーケテクニックと迅速な作業メソッドを身につけ、商品としての制作理解を深める。	1後	60	2	△	○	△	○								○	
○		基礎技術演習Ⅱ（植物学Ⅰ-1）	北海道の草花をはじめ、鉢花、観葉植物を学名から特徴、植生、栽培方法までを網羅して学ぶ実用的な研究。	1通	90	3	△	○	△	○	△							○	
○		基礎技術演習Ⅱ（植物学Ⅰ-2）	花壇のコーディネートを通して、自然環境分野に幅広い視野を持つことを目指す。	1通	90	3	△	○	△	○								○	
○		専門技術演習Ⅰ（フラワーデザイン基礎演習）	生花、造花を使用する作品のデザインについて基礎技術、デザイン画、資材、生花選びの基本を学び、環境配慮や費用計算など具体的な計画の下に制作する。	1後	30	1	△	○	△	○								○	
○		専門技術演習Ⅱ（資材研究）	フラワーデザインに使用する資材について、様々な種類や活用方法を学ぶ。デザイン案を起案し、必要な資材を実際に選ぶ体験を通して、コスト感覚を身につける。	1後	30	1	△	○	△	○	△							○	
○		専門技術演習Ⅱ（Excel・Word）	商品、売上管理など、フラワーショップ実務に不可欠なパソコンによる表計算、文書作成の操作技能を身につける。Excel表計算処理技能検定3級対応。	1後	60	2	△	○	△	○								○	
○		専門技術演習Ⅰ（花材市場研究Ⅰ）	フラワーデザイン、フラワービジネスに必須の花材市場の現状と将来展望について、現場見学を踏まえて学ぶ。花材の選び方を実践的に学ぶ。	1後	30	1	△	○	△	○	△	○							
○		DTP演習（DTP基礎演習）	Illustrator, Photoshopのグラフィックソフトを使い、ビジュアル表現の技術を高める演習授業。	1前	30	1	△	○	△	○								○	
○		前期課題制作	日常の実習を通し学んだ発想・技法を生かし、前期の総まとめとして課題制作をする。	1前	30	1	△	○	△	○	△	○							
○		後期課題制作	日常の実習を通し学んだ発想・技法を生かし、後期の総まとめとして課題制作をする。	1後	30	1	△	○	△	○	△	○							
○		コンペ課題制作（フローラルアートⅠ・フラワーディスプレイ）	フローラルアート、フラワーディスプレイの基礎技術を高め、コンペティションの規定に即して起案、制作を行ってみる。	1前	30	1	△	○	△	○								○	
○		進級制作	1年間の総まとめとしての成果を問うべく、各自専攻色を生かした課題制作に取り組む。	1後	180	6	△	○	△	○	△	△	○						

○		各種概論 (フラワー デザイン Ⅳ)	NFD(日本フラワーデザイナー協会)資格 検定の取得に向けた受検対策。	2 前	60	2	△	○	△	○				○	○
○		表現技法演 習(DTP 演 習)	Illustrator, Photoshopのグラフィックソ フトを使い、提案書を作る編集技能を身に つけ、さらにプレゼンテーションを行うこ とでコミュニケーション能力を養う。	2 前	60	2	△	○	△	○				○	
○		材料学(フ ラワーコー ディネー ションⅣ)	花材となる植物の植生を学び、さまざま な植物形体や形態による分類に基づく組み 合わせ方を知り、表現の幅を広げる。	2 前	60	2	△	○	△	○		△		○	○
○		プレゼン テーション (業界研 究)	花産業の内容を学び、経営・商品・技術と サービスという花業界の基本的なしくみ理 解する。	2 前	30	1	△	○	△	○				○	
○		デザイン演 習(いけば なⅡ)	いけばなの伝統的作法を身につけ、自らの オリジナリティーを加えて作品制作する。 学校華道インターネット花展対応。	2 前	60	2	△	○	△	○				○	
○		応用技術演 習Ⅰ(花材 市場研究 Ⅱ)	花材市場の現場見学を踏まえて学ぶ。デザ イン案を起案し、花材の選択眼とコスト感 覚を養う。	2 前	60	2	△	○	△	○	△			○	
○		応用技術演 習Ⅰ(フラ ワーデザ インⅣ)	ブーケ・コサージュの装飾性と造形形態、構 成要素を学ぶ。またワイヤリングテクニ ックやリボンワークも段階的に身につける。	2 前	60	2	△	○	△	○				○	
		応用技術演 習Ⅰ(フラ ワービジ ネスⅠ)	フラワーショップで実務を経験し、現場で 必要とされる仕事についての心構えを認識 する。花き卸売市場を見学し、業界団体主 催の講習会に参加する。	2 前	60	2	○	△	△	○	△			○	○
○		応用技術演 習Ⅰ(フラ ワービジ ネスⅡ)	フラワービジネスの中でも、特にブライ ダルフラワービジネスについて学ぶ。最前 線の現場における現状と課題について知り、 トレンドの商品例を学び、実際に制作す る。	2 前	30	1	△	○	△	△	○			○	
		応用技術演 習Ⅰ(フラ ワーデザ インⅤ)	植物の自然性を観察することから考えられ たカテゴリーで、形や構成をテーマとし、 植物素材を概念的に構成し、造形のなかに 組み入れて考える。	2 前	60	2	△	○	△	○				○	
		応用技術演 習Ⅱ (フラワー コーディネート Ⅲ)	さまざまな構成法と個人の感性を生かし、 植物素材の雰囲気、動き、色彩、フラ ワーデザインの歴史をふまえて、植物素材の もつ特徴を造形要素に組み入れる。	2 前	60	2	△	○	△	○				○	○
		応用技術演 習Ⅱ (フラワー コーディネート Ⅳ)	ブライダル、フューネラル、母の日、クリ スマスなどのイベントを想定し、実践的な デザインテクニックを学ぶ。	2 前	60	2	△	○	△	○				○	○
○		応用技術演 習Ⅱ(職業 実践演 習Ⅱ)	国家資格のフラワー装飾技能検定合格に向 けて、同検定の学科、実技の内容を反映さ せた発展的知識と技術の習得を目指す。	2 前	30	1	△	○	△	○				○	

○		前期課題制作	日常の実習を通し学んだ発想・技法を生かし、前期の総まとめとして課題制作をする。	2前	30	1		○	△	○	△	○		
○		コンペ課題制作（フラワービジネス）	コンペ課題制作（フラワービジネス）色が与える千差万別の印象を、花、あるいは植物の持つ色、器の色、組み合わせる素材の色、こだわりの部分にねらいを定め、デザインし、表現する。	2前	30	1	△	○	△	○			○	○
○		卒業制作	在学中に学んだフラワーデザインの専門知識、技術を十分に生かして、自らテーマを設定し、大型作品完成を目指す。	2後	450	15		○		○	△	△	○	
合計				27科目	2400単位時間（									80単位）

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各学年の教科目を履修・修得し、卒業制作の審査に合格した者は、第2学年の課程の修了が認められ、卒業が認定される。卒業時必要履修授業時数2,400単位時間。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。